

宇佐八幡宮 秋季例大祭

Annual Autumn Festival in Usahachimangu Shrine

創建時より八百年の時を重ね、第二次世界大戦時にも止めることなく受け継がれてきた、笠居郷の心意気が表れたお祭り。創建の縁起を再現するように、香西と鬼無の境にある御旅所まで神様をお連れし、賑わいを楽しんでいただく。

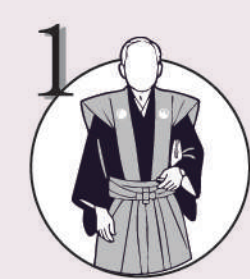
秋季例大祭とは

10月第1土日に行われる、800年の歴史をもつ笠居郷最大のお祭り。神幸祭では御神輿3艘に獅子舞14連、奴2連、太鼓台、小船、元船の計19連の練物を出して、秋の豊作への感謝と五穀豊穡を願う。地元総出のお祭りで、御神輿の行列は宇佐八幡宮本殿から御旅所までの350m余りを7時間ほどかけて奉納しながら往復する。

多主体の複雑な絡み合い

秋季例大祭の伝統的な主体は、①神人、②装束家、③頭家。三者に加えて、地区の練物連を始めとする氏子の複雑な構成のもと、それぞれの役割を担いながら同時並行で進むお祭りを協働して執り行う。特定の人物が全体を一括して管理する一般的な運営形態とは異なり、多様な主体が各々の役割を全うし編み合わさることで、一つのお祭りがつくり上げられている。

秋季例大祭の伝統的な主体



ジニン
神人

「神人」は宇佐八幡宮から笠居郷に向かう神船に乗っていた一族である神高家・天雲家・田所家の三家の呼称で、現在まで秋季例大祭の神事の指揮を担っている。鬼無・香西・下笠居のどの地区から御神輿の御神幸を務めるか決める籤を司る役、全体の統括役など細かく割り振られている。



ショウゾクケ
装束家

「装束家」は、勧請の際に船から降りた神人を家に招き、装束を整えたとされる下笠居・弾正原地区にある溝内家の呼称。現在では秋季例大祭で練物や渡御行列の進行を管理する役を担っている。時間管理までこなし、練物行列を抜かして御神輿を動かすのかといった繊細な判断も、一手に引き受けている。



トウヤ
頭家

「頭家」はお祭りの中心的な世話役。毎年地区の持ち回り制で、香西2名・鬼無1名・下笠居1名の4名が選ばれる当番制度。選ばれた家では「しめおろし」と言われる清祓いの神事を斎行し、その役を担う頭人（トウニン）は神懸かり秋季例大祭の間、宇佐八幡宮の御祭神を守る露払いを務める。

	鬼無	香西		下笠居	
		大部落	小地区	大部落	小地区
令和7年	鬼無中部	全釣	港町南	植川	川窪西
令和8年	是竹	全本津	本津北	中山	尾路
令和9年	佐科	全平賀	芝山	生島	生島上
令和10年	藤井	全釣	釣西	植川	中磯南
令和11年	佐藤	全本津	本津西	中山	弾正原北
令和12年	山口	全平賀	中塚	植川	川窪東
令和13年	鬼無南部	全釣	釣東	中山	原
令和14年	是竹	全本津	本津南	生島	生島北

「頭家」を担う地区の当番順（令和7年～14年）

3地区それぞれで持ち回り制。大部落は小地区に分かれ、その中でも持ち回り制がある。

祭礼の流れ

鬼無・香西・下笠居の頭家それぞれで「しめおろし」を斎行した後、二日間に渡ってお祭りが執り行われる

10月第1金曜 1日目：頭家しめおろし

2026年10月2日(金)

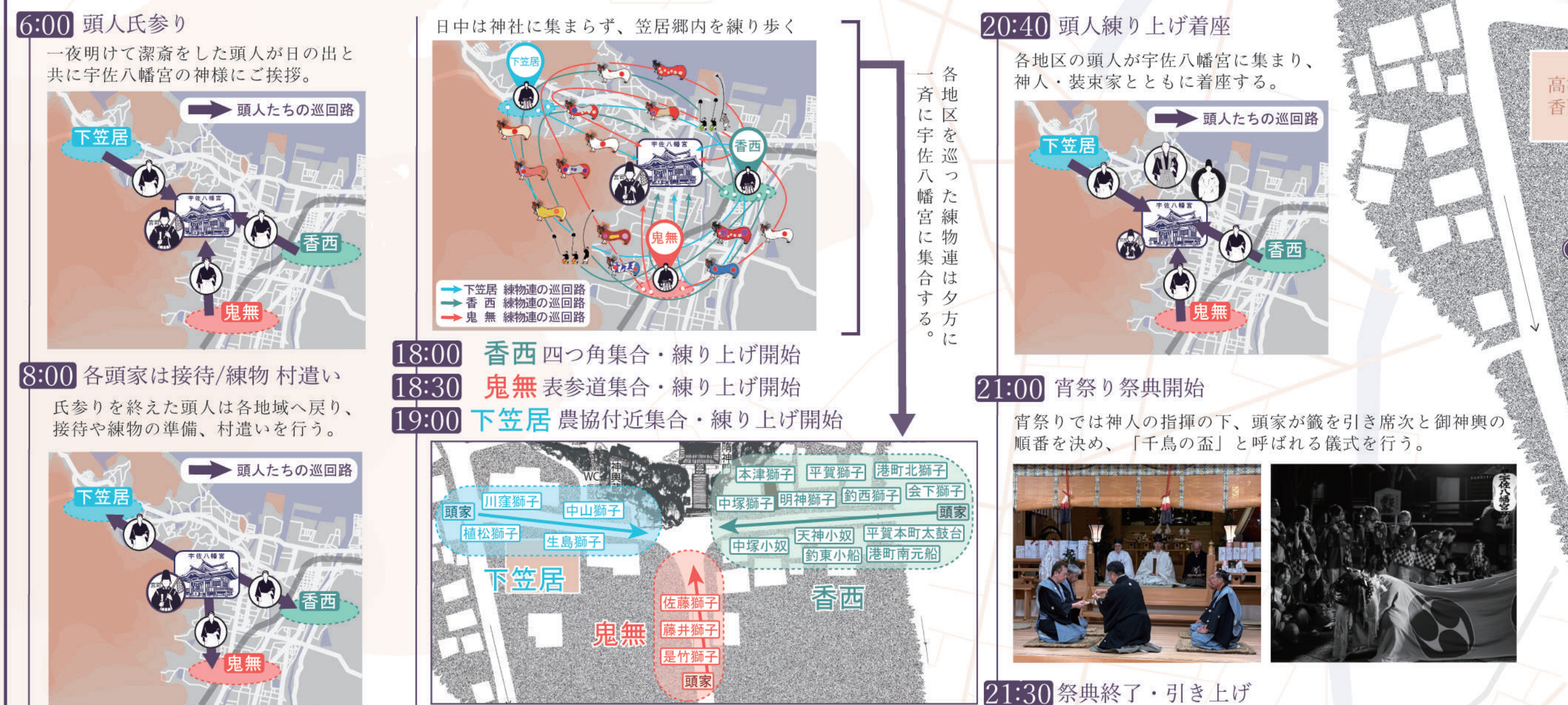
宇佐八幡宮の宮司が、鬼無→下笠居→香西の順に各地区を巡り、それぞれの頭家で「しめおろし」を執り行う。各地区ではお祭りを迎える準備が整えられ、翌日の宵祭りへ向けた一日が始まる。



10月第1土曜 2日目：宵祭り

2026年10月3日(土)

各地区の頭人は明朝に宇佐八幡宮にて氏参りを行い、その後それぞれの地区へ戻って接待や練物の準備を進める。夕方には各地区から練物と頭人が宇佐八幡宮へ集結し、練り上げ・着座を経て、お祭りの幕開けとなる宵祭りが執り行われる。



10月第1日曜 3日目：本祭り

2026年10月4日(日)

いよいよメインの神輿行列のある本祭り。午前には各地区での奉納や、社殿での総代が集結する本祭祭典が斎行される。午後になると神輿蔵から御神輿が運ばれ、神幸祭が始まり、夜まで行列と練物の奉納が続く。



※時間等は2025年の記録を基に示しており、状況に応じて前後する。
※本紙は、地域遺産リサーチセンター（代表：山川志典）調査報告を基に作成している。